



「第2農場」は、北海道畜産の発祥の地。札幌市北区北18西8の北海道大学構内にあり、国内最古の洋式農業建築物のモデルバーン（模範家畜房）コーンバーン（穀物庫）などが建ち並ぶ。69年、国の重要文化財に指定された。

第2農場は、北大の前身、札幌農学校が開校した1876（明治9）年の直後から1967年まで続いた研究施設で、家畜を使った洋式農法を実践した。1万9000平方メートルの敷地内にモデルバーンやコーンバーン、種牛舎、牧牛舎、脱ぶ室・収穫室・動力室、秤量場、釜場、精乳場、事務所の計9棟が現存する。

モデルバーンは、牛と馬の家畜房や牧草の乾燥室を備える。木造2階建てで、建て床面積は476・9平方メートル。マサチューセッツ農科大の家畜房にならって、同大出身の札幌農学校第2代教頭、ホイラー氏が設計した。初代教頭、クラーク博士の「北海道農業の模範になってほしい」という願いが名称に込められたという。

コーンバーンは、トウモロコシを貯蔵する施設。高床式の木造2階建てで、ねずみ返しを設置されている。1階はすのこ張りで、通気の良い構造。建て床面積は110平方メートル。

ともに建築物としても貴重な価値を持つ。ツーバイフォーの起源といわれる「バルーンフレーム方式」を採用しているのが特徴だ。

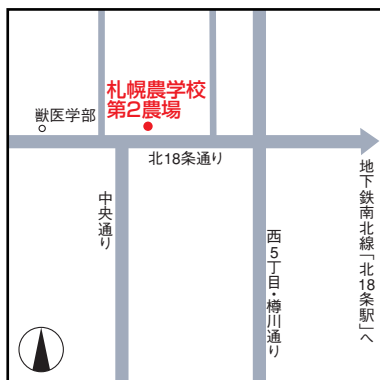
第2農場の歴史は、開校当時のクラーク博士の大農経営構想から始まる。1戸の酪農家をイメージした、北海道開拓の模範農場として発足した。中核施設のモ



デルバーンとコーンバーンは、開校翌年に完成した。以前は現在の図書館周辺にあったが、総合大学へ発展する過程の1911（明治44）年に現在地に移転した。72〜80年に修復工事が行われている。

これまで第2農場で飼育されたホルスタイン種の血統は同大学で今も脈うち、これまでの出産数は雌雄ともに1050頭を超えるという。

Data



●お問合せ先
北海道大学総合博物館 Tel.011-706-2658

まちづくりと遺産

バーンの一般公開、 今後も年2回程度

北大キャンパスの中央通り北端に位置する第2農場は、周囲の騒々しさとは対照的にひっそりとした雰囲気を感じ出している。

入り口近くの事務所で警備員が24時間態勢で見守っているが、敷地内に自由に出入りできる。カメラや絵筆を手にした市民や道外からの観光客が訪れる、“オアシス的存在”でもある。

施設の文化的価値を伝えようと、00年1月の大学評議会は、整備計画を決定し、これまで閉鎖して管理していたモデルバーンやコーンバーンの内部の一般公開への道を開いた。

一般公開は北大創立125周年の昨年と、今年6月の大学祭、今年10月の3回しか行われていない。一方で整備は、敷地に砂利を敷いた歩道や順路の標識を設置し、徐々にではあるが進んでいる。

一般公開は、市民が建物内部を目にする貴重な機会。今後も年2回程度公開していく方針で、端教授は「モデルバーンの家畜房に牛の模型を置くなど、当時の様子を復元していきたい」と抱負を語っている。